水曜通信42

東北学院宗教センター編

2024年
11月

第77回 水曜公開礼拝
2024年11月20日（水） 18：30－19：00

＜礼拝次第＞

前　奏：G. A. ホミリウス作曲
「装いせよ、おお、わが魂よ」

讃美歌：243番「ああ主のひとみ」

聖　書：ヨハネによる福音書21章15～19節

讃美歌：271番「いさおなきわれを」

説　教：「愛ってなんですか」

頌　栄：541番「ちちみこみたまの」

後　奏：M. レーガー作曲
「強き王なる主をほめまつれ」

説教
東北学院中学校・高等学校
聖書科教諭
成（ソン）　智圭（チキュ）

奏楽・第2部演奏
礼拝オルガニスト
小野　なおみ

後奏の後、小野なおみ氏（礼拝オルガニスト）によるオルガン演奏による賛美を行います。

次回第78回水曜公開礼拝は12月18日です。

第76回 水曜公開礼拝報告（説教：田島 卓、奏楽：椎名 雄一郎）

2024年10月16日（水） 18：30－19：00

讃美歌：34番「いのちのたびじは」
聖　書：申命記７章６－８節
讃美歌：85番「主のまことは」
説　教：「愛のゆえに」
頌　栄：543番「主イエスのめぐみよ」

【説教要旨】

厳格なことで有名だった祖父が、ひとりの孫には甘かったという話があります。一人の子供だけを特別に甘やかすという行為は原則や公平性という視点からみると、認められないものですが、しかし、このお孫さんが感じていたであろう、お祖父さんから特別に大切にされていたという思いは、公平性という視点からは見えてきません。私たちが愛とは何かを強く感じるのが自分という存在を通してであるとすれば、愛はひとつひとつの特別なエピソードを通して間接的にしか語れないのではないでしょうか。旧約聖書に、公平さを欠くようなエピソードを読むとき、私たちはこれを二人称で考えてみることで、その真意を垣間見ることができます。（大学宗教主任　田島 卓）

前　奏：M. レーガー作曲《最愛のイエスよ、われらここに集まりて》op.135a-14
後　奏：M. レーガー作曲《神はわが砦》op.79b-2

前奏、後奏ともドイツの作曲家マックス・レーガー（1873－1916）のコラール編曲を選択しました。レーガーはカトリックの信仰を持ちながらも、多くのルター派の賛美歌を編曲しています。《最愛のイエスよ、われらここに集まりて》はバッハも多くの編曲を残している賛美歌、そして《神はわが砦》はルターによる作詞作曲です。音楽は作曲された当時の世界を映し出す存在です。レーガーと私たちは生きる時代は違いますが、不安の中で生きているということでは共通しているのではないかと考えさせられる作品です。（文学部教授　椎名 雄一郎）

礼拝とその後19時から19時30分までの椎名雄一郎氏によるオルガンによる賛美に40名の方が参加されました。

礼拝後、音楽による賛美（オルガン演奏：椎名 雄一郎）

1．J. S. バッハ作曲　わが魂は主をあがめ　BWV648
2．J. ラインベルガー作曲　オルガン・ソナタ第４番　イ短調

本日の賛美のテーマは「マニフィカト（マリアの賛歌）」です（４月に引き続いて）。ルカによる福音書１章46～55節の「マリアの賛歌」は、アドヴェントの時期によく読まれる聖書箇所で、カトリック、イギリス聖公会、ルター派などでは、毎日の晩課（夕の祈り）で歌われてきました。「マリアの賛歌」は、マリアが主を賛美して歌った歌で、イエスが生まれる前に、すでにイエスについて歌っています。今日はJ. S. バッハ、そして19世紀のJ. ラインベルガーを取り上げました。ラインベルガーの「オルガン・ソナタ」では、第１楽章、第３楽章でマニフィカトのメロディーが現れます。第２楽章はクリスマスの情景が描かれています。（椎名 雄一郎）

― 建築が語る東北学院の歴史（33）―

昭和37（1962）年４月に３学科（機械・電気・応用物理）の体制で開設された工学部は、昭和41（1966）年３月に最初の卒業生を送り出しました。４月には大学院（応用物理学専攻）が設置され、前後して土木工学科の増設計画が具体化されていきました（設置は昭和42年４月）。土木工学科の設置は、設置認可申請書（昭和36年９月）に掲げられていた「応用化学科、土木・建築学科、工業経営学科等」の増設計画の一環でした。ちなみに当初キャンパス用地の払下げを申請した書類には、３学科の完成後に「商工高校」を併設する計画が示されていましたが、これは日の目を見ることがありませんでした。県内私立高校間の学生数の均衡を考慮した県と折り合いがつかなかったためと伝わります。

さて、１棟の新棟と既存の米軍施設を使用して教育・研究活動を開始した工学部には、以後段階的に施設が増設されていきました。まず米軍の寄宿舎を転用した学生寄宿舎に、昭和38（1963）年春、食堂棟が増築されました。夏には同じく旧施設（旧１号館・旧２号館）に礼拝堂と講義室を増築する工事が始められ、さらに昭和40年には４号館が完成します（第二期工事）。土木工学科が新設された昭和42年には、５号館と６号館（当初は平屋建て）の新築工事が開始されました（第三期工事）。

（工学部　崎山 俊雄）

図１：昭和43年時点のキャンパス配置図
（東北学院施設部旧蔵）

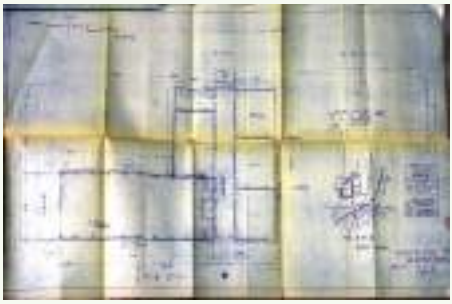

図２：既存施設に増築された旧礼拝堂の設計図
（東北学院施設部旧蔵）

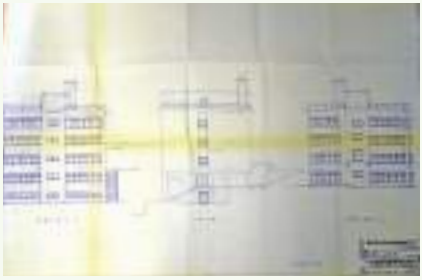

図３：４号館新築時の設計図
（東北学院施設部旧蔵）

図４：昭和41年３月頃のキャンパスの様子
（電気工学科卒業記念誌より）

旧約聖書のヘブライ語（３）
魂、いのち、のど、ひと？

聖書を読んでいると「魂」という言葉に出くわすことがありますが、この「魂」という言葉はなかなか翻訳の難しい言葉です。ヘブライ語で「魂」と訳される言葉は、もとは「ネフェシュ」という言葉なのですが、これは「魂」以外に、「のど」「いのち」「ひと」などとも訳されることあるのです。これはおそらく「のど」が元々の意味で、「のど」から派生して「欲求」を意味するようになったり、喉を息が通ることから「いのち」を意味するようになったものだと思われます。つまり聖書のヘブライ語では、肉体と精神がそれほど厳密に区別されていないということになりそうですが、これは現代の哲学などでも身体論などとの関連でとても興味深い知見です。

（大学宗教主任　田島 卓）

大学宗教部主催　秋季特別伝道礼拝企画

スペシャルミュージックサービスのご報告

10月９日に行われた大学宗教部主催「秋季特別伝道礼拝企画　スペシャルミュージックサービス」には約200人の方々が参加されました。第１部は、長沢崇史牧師と本学学生とのトークセッションが行われ、学生からの質問に答える形で、長沢先生より賛美や神様についてのお話などを聞くことができました。第２部では、長沢牧師とＴＧＣＦ学生賛美チームの演奏と共に、参加者の賛美の声が五橋キャンパスの押川記念ホールいっぱいにあふれる時間となりました。

多くの方々のお祈りとお支えの内に無事に終えることができましたことを感謝いたします。

東北学院宗教センター編「水曜通信」第42号
2024年11月６日発行
発行責任者：宗教センター主任　原田 浩司
東北学院宗教センター　TEL：022-354-8310
〒984-8588　仙台市若林区清水小路３-１
Email：c.center@mail.tohoku-gakuin.ac.jp

宗教センターHP